

農村ツーリズムの方針

令和2年(2020年)6月17日
石狩振興局

1 地域の現状

- 石狩振興局管内は北海道の北西部にあって、日本海に面し、北端の増毛火山群に属する高山へと続いています。総面積は3,539.86km²で、鳥取県とほぼ同じ面積となっています。
- 変化と景観に富んだ海岸線の日本海オロロンラインや南西部は恵庭岳を主峰とする山岳地帯、エメラルドグリーンに輝く支笏湖が支笏洞爺国立公園を形成しており、北海道らしいダイナミックさと神秘的魅力にあふれています。
- また、国内外から北海道へ訪れる旅行者等の空の玄関口である新千歳空港、丘珠空港の2つの空港が設置されており、北海道の中核機能を備える道都札幌市を中心に、全道人口(534万人)のうち、その44%が集中する大都市圏を形成しており、都市近郊の利点を活かした農産物の販売や果物狩り、農業体験など都市と農村の交流が活発に行われています。

2 地域の抱える課題

- 農林水産業における就業者等の減少・高齢化により、地域の活力の低下が懸念されており、女性や高齢者の活動促進を含めた地域の多様な活動を支える担い手の育成・確保や、営農支援組織の一層の推進などが必要となっています。
- これまで、各市町村における農産物の直売所や観光農園、市民農園など都市との交流が行われてきており、また、修学旅行生の農業体験受入も行われています。
近年、安全・安心で高品質な農産物に対する消費者ニーズが高まっていることから、食育や農作業体験、地元直売所などを通じて地域特有の魅力を発信し、都市と農村の交流等に取り組んでいくことが必要となっています。

3 今後の展開(すすめ方)

- 地域の多様な自然と生産活動を活かした観光農園や直売所などを通じて、地域に暮らす人と地域を訪れる人がふれ合い、ともに地域の魅力を感じられるよう、地域が持つ多様な価値や資源を掘り起こし、それを磨き上げることで豊かな一次産業を活かし、その時々々の情勢に対応した受入体制を整えた体験型、滞在型の農村ツーリズムに努めます。

【具体的展開】

- 滞在型観光の推進に向けた国の農山漁村振興交付金(農泊推進対策等)などの活用における事業制度の周知や関係者への助言・指導
- 都市と農村の交流拠点となる観光農園や直売所の活動推進
- 地域内外の多様な交流を担うキーパーソン、地域受入サポート等の構築
- 教育旅行における地域資源の特色を活かした取組や受入農家の負担軽減など、受入地域及び農家の活性化に向けた取組推進
- 地域の魅力ある歴史や食、観光などの情報発信による交流人口の拡大